

都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会

令和5年度採択都市 事例発表（10月）

埼玉県
都市整備部都市計画課



PLATEAU
by MLIT

I. プロジェクト全体像

実施事業・事業規模・実施主体

R5年度実施事業			規模(配分ベース)【千円】		実施主体
			事業費	国負担分	
(1)	3D都市モデルの整備	3D都市モデル整備 (LOD1)	115.00	57.50	国際航業 株式会社
		3D都市モデル整備 (LOD2)	5.00	2.50	
(2)	ユースケース開発	3Dハザードマップの作成	0.00	0.00	国際航業 株式会社 ・埼玉県
		全庁GISにデータ搭載	0.00	0.00	
(3)					



PLATEAU
by MLIT

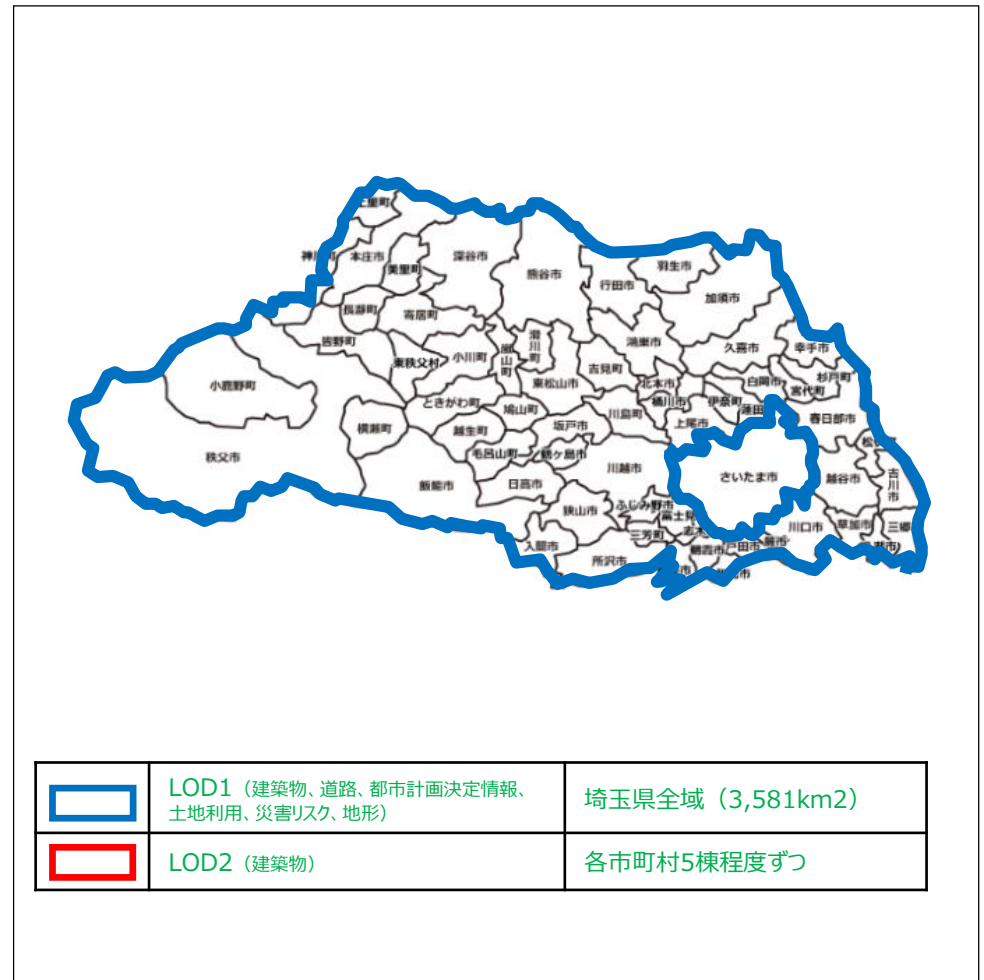
Ⅱ. 3D都市モデルの整備

整備する3D都市モデルの概要

整備対象地物（基本セット）

地物名		整備状況	範囲
建築物	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
	LOD2	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
道路	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
都市計画 決定情報	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
土地利用	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
災害リスク	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）
地形	LOD1	R5年度新規整備 R6年度以降新規整備	10市町（478.7km ² ） 上記除く埼玉県全域 （3,102km ² ）

整備エリア図





Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

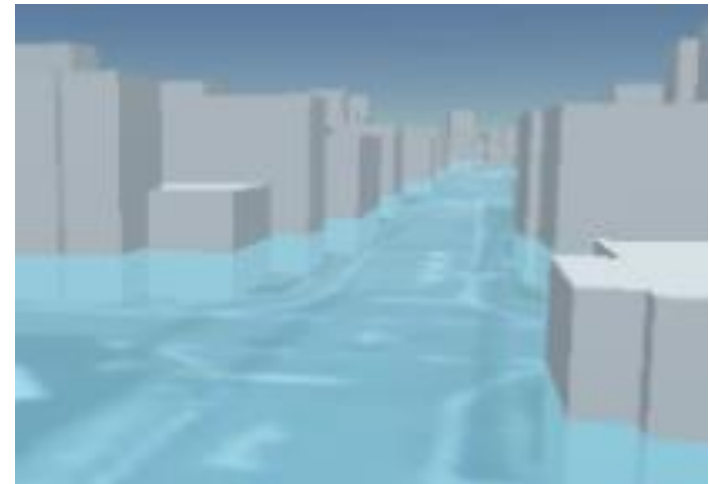
ユースケース開発の概要

テーマ	防災・防犯
ユースケース 名称	3Dハザードマップの作成と公開
目的	県民一人一人の危機管理意識の向上を通し、躊躇ない避難行動を促す。
概要	3Dハザードマップで洪水時における災害リスクを可視化し、全庁GISで公開する。
実施体制・ 役割分担	(事業主体) 埼玉県 (受託者) 国際航業株式会社

Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

アウトプットイメージ

- 3D都市モデル（建物）と浸水想定データ（外水・内水）の重畳、可視化





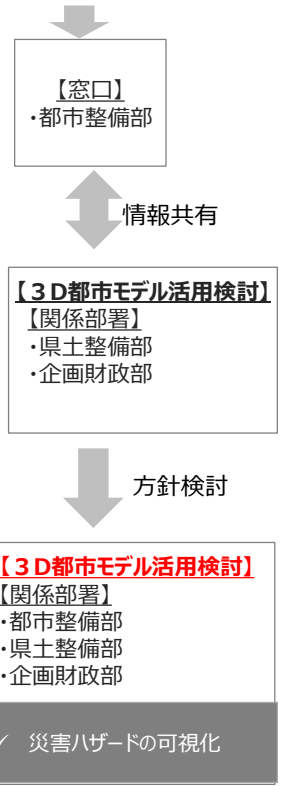
PLATEAU
by MLIT

IV. R5年度事業化に向けた検討・調整経過について

	'22/4月～	6月～8月	9月	10月	11月～12月	'23/1月	2月～3月	4月～
--	---------	-------	----	-----	---------	--------	-------	-----



埼玉県の動向



<事業の具体化に向けた検討過程>

【課題意識】
 (都市) 都市計画基礎調査の建物現況調査が未実施
 (県土) ITを活用した河川防災情報の充実
 (企財) DX推進のため全庁GISを整備 … (R5からの整備に向け別の動き)

↓

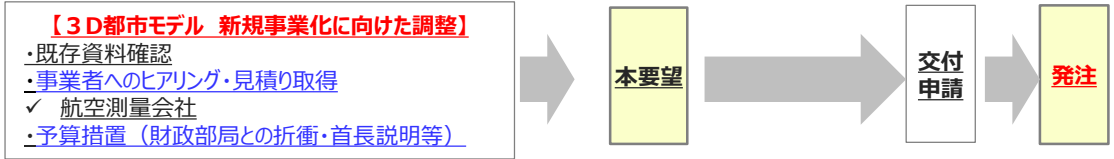
- 3D都市モデルを整備
- 建物モデルと浸水モデルを重ねることで3Dハザードマップとして公開
- 公開するツールとして全庁GISを活用

【財政課との折衝】
 (財政課) 市町村が整備すべき

↓

- 知事が力を入れている「DXの推進」を県が先導すべき
- 都市計画法で義務付けられている「建物現況調査」を補助事業で実施するチャンス

概算要望





PLATEAU
by MLIT

V. R5年度の実施フロー

